

変額保険 グローバルミックス

【引受保険会社】



アクサ生命保険株式会社

〒108-8020 東京都港区白金1 17 3

四半期運用レポート

2009年1月～2009年3月

【利用する投資信託の委託会社】

アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社



アクサ・ローゼンバーグは、マルチ・エキスパートによる資産運用業務をグローバルに展開するアクサ・インベストメント・マネージャーズの日本法人として、機関投資家の資金や投資信託の運用を行う資産運用会社です。1987年の日本進出以来、ファンダメンタルズ情報と最新の運用テクノロジーを結合することにより、一貫した投資哲学に基づく株式のアクティブ運用を行うとともに、債券、オルタナティブ投資商品といった幅広い投資家のニーズに応える高品質な運用商品を提供しています。

特別勘定の運用方針について

基本資産 配分比率	運用方針	利用する投資信託	
		投資信託名	委託会社
株式 50%	日本国債をはじめとする債券及び日本・米国・欧州の株式に分散投資することにより、中長期での資産の安定的な成長をめざします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。 基本資産配分は、株式50%程度、債券50%程度とします。 運用の決定にあたっては、収益性、安全性、流動性に配慮し、運用環境の動向に応じた資産配分を行います。 (特別勘定の運用は、アクサ生命保険株式会社 ファンドマネジメント・チームが行います。)	アクサ・ローゼンバーグ・日本株式ファンド(A) 適格機関投資家私募	アクサ・ローゼンバーグ 証券投信投資顧問株式会社
		アクサ・ローゼンバーグ・日本バリュー株式ファンド(B) 適格機関投資家私募	
		アクサ・ローゼンバーグ・米国株式ファンド(A) 適格機関投資家私募	
		アクサ・ローゼンバーグ・欧州株式ファンド(A) 適格機関投資家私募	
		アクサ・ローゼンバーグ・日本債券ファンド(B) 適格機関投資家私募	
債券 50%			

特別勘定の運用方針、利用する投資信託および委託会社等の運用協力会社は、将来変更されることがあります。

特別勘定には、各種支払等に備え、一定の現金、預金等を保有することがあります。

- ・アクサ生命保険株式会社の「変額保険」は、特別勘定で運用を行う保険商品です。特別勘定の主たる運用手段として投資信託を用いますが、投資信託ではありません。
- ・当資料は、アクサ生命保険株式会社の「変額保険」の運用状況等を開示するためのものであり、生命保険の募集を目的としたものではありません。
- ・当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき作成した部分を含んでおりますが、その部分の正確性・完全性については、これを保証するものではありません。
- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- ・商品内容の詳細については「リファレンスブック」、「ご契約のしおり・約款」、「特別勘定のしおり」をあわせてご覧ください。
- ・当資料に記載されている各表にある金額、比率、資産構成等はそれぞれの項目を四捨五入等していますので、合計等と合致しないことがあります。

変額保険

特別勘定の四半期運用レポート (2009年1月～2009年3月)

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知ください。
・当ページは、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき、アクサ生命保険株式会社が作成し提供するものです。情報の内容に関しては万全を期しておりますが、その正確性・完全性については、これを保証するものではありません。

運用環境 [2009年1月～2009年3月]

【日本株式市場】

日本株式市場は、下落しました。TOPIX(東証株価指数)は12月末比9.96%下落の773.66ポイントで終了しました。
各国の景気刺激策などが好感され、株価は上昇して始まりましたが、相次ぐ国内企業による業績見通しの下方修正や世界的に金融システム不安が再燃したことなどから3月中旬にかけて大幅に下落しました。その後は、米大手銀行などの業績回復発表や米政府が発表した不良資産買い取り策を好感した米株高に加え、日本政府による大規模な経済対策への期待感などから買戻しが続いて反発しました。
業種別(東証33業種)では、円高傾向が一服したことなどから「輸送用機器」(12月末比+12.46%)が最も上昇した一方、商工ローン大手の破綻などが嫌気された「その他金融業」(同 26.24%)が最も下落しました。

【外国株式市場】

外国株式市場は、軟調に推移しました。
米国株式市場は下落し、NYダウは12月末比 13.30%下落の7,608.92ポイントで終了しました。米国をはじめとする各国の景気刺激策への期待感が高まり、株価は上昇して始まりましたが、欧米企業の業績悪化や2008年12月の米失業率が16年ぶりの高水準になるなど経済状況の悪化を示唆する経済指標が相次ぎ、世界的な景気後退の深刻化が懸念され、3月中旬にかけて大幅に下落しました。その後は、米大手銀行の業績回復発表を契機に金融株を中心に買い戻しが膨らみ、反発しました。
欧州株式市場は米国同様の動きとなり、市場別騰落率は、英FT100は12月末比 11.46%下落、仏CAC40は同 12.76%下落、独DAXは同 15.08%下落となりました。

【日本債券市場】

日本債券市場は、揉み合いながら推移し、新発10年国債利回りは3月末1.340%となりました(12月末は1.165%)。
米大統領の経済金融対策への期待感を受けた米株高と米債券安を背景に、調整地合いが続き、2月上旬にかけて新発10年国債利回りは1.3%台まで上昇して始まり、その後、国内景気の大規模な悪化や日本銀行の長期国債買入れの大幅増額を背景とする債券買いと、日本政府による追加経済対策に伴う国債需給悪化懸念を嫌気した債券売りが交錯し、1.3%前後の狭い範囲内で揉み合いながら推移しました。
日銀は、政策金利を据え置き、年0.1%を維持しました。
無担保コール(翌日物)は0.1%程度の水準で推移しました。

【外国債券市場】

外国債券市場は、まちまちの推移となりました。
米国債券市場は、米政府による景気対策などの一連の支援策が今後の国債発行量増加につながり債券の需給関係が悪化するとの懸念から、売りが優勢となり、2月に米10年国債利回りは3.0%前後での推移となりました。3月に入り、FRB(米連邦準備制度理事会)が長期国債買入れを決定したことなどを受けて、大きく買い進まれる展開となりました。米10年国債利回りは、3月末2.663%となりました(12月末は2.212%)。
欧州債券市場は、2月上旬にかけて、国債需給悪化懸念から売りが優勢となり、独10年国債利回りは一時的に3.4%台となりました。その後、金融不安再燃から買われる展開となり、独10年国債利回りは、3月末2.994%となりました(12月末は2.951%)。
FRBは、FF(フェデラル・ファンド)金利の誘導目標を据え置き、年0.0～0.25%を維持しました。ECB(欧州中央銀行)は政策金利を1.0%引き下げ、年1.5%としました。

【外国為替市場】

円は、大幅なマイナスとなった日本の10-12月期実質GDP成長率をはじめ、景気悪化を示唆する経済指標が相次いで発表されたことを背景に、軟調な推移となりました。
米ドル/円相場は、日本の景気悪化やオバマ米新政権に対する期待感などを背景に、円安が進行しました。円は対ドルで12月末比7円20銭(-7.91%)円安ドル高の1ドル=98円23銭となりました。
ユーロ/円相場は、欧州の景気後退の深刻化懸念からユーロ売りが優勢となる局面もありましたが、東欧経済安定化期待や日本の景気悪化を背景に、円安が進行しました。円は対ユーロで12月末比1円88銭(+1.47%)円安ユーロ高の1ユーロ=129円84銭となりました。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

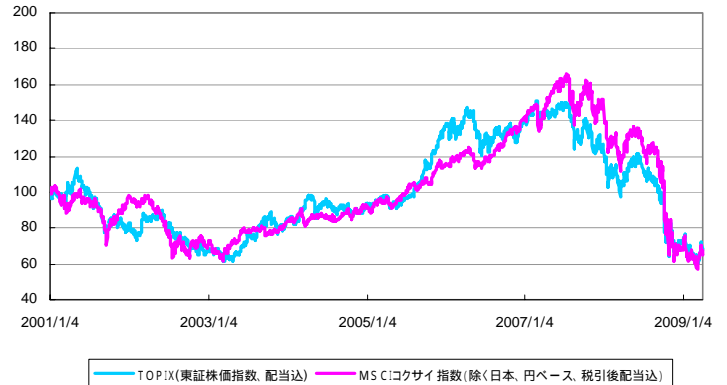
お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-778-133

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

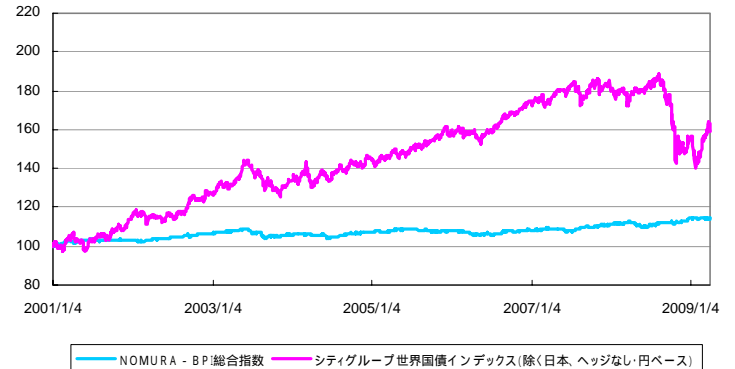
日本と外国の株式市場の推移

*下記グラフは2001年1月4日を100として指数化しています。

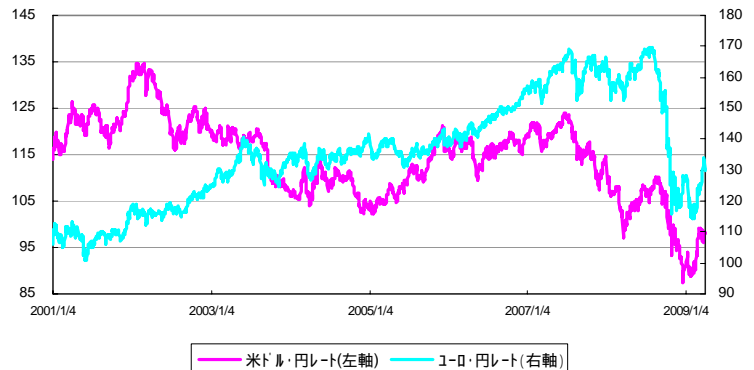


日本と外国の債券市場の推移

*下記グラフは2001年1月4日を100として指数化しています。



外国為替市場の推移



出所: 株式会社三菱東京UFJ銀行の対顧客電信相場仲値

変額保険

特別勘定の四半期運用レポート（2009年1月～2009年3月）

- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- ・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。

特別勘定の運用状況 [2009年3月 末日現在]

特別勘定のINDEXの推移

特別勘定のINDEXは、特別勘定で利用している投資信託の基準価額とは異なります。



	2009年3月末	2009年2月末	2009年1月末	2008年12月末	2008年11月末	2008年10月末
INDEX	0.740	0.731	0.764	0.782	0.777	0.789
	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
騰落率(%)	1.14	5.47	13.12	19.08	24.75	26.04

特別勘定のINDEXは、2000年8月1日を1.00として計算しています。

騰落率は、該当月の月末のINDEXに対する当月末のINDEXの変動率を表しています。

特別勘定資産の内訳

項目	金額(千円)	比率(%)
現預金・コールローン	572,529	2.0
その他有価証券	28,402,441	98.0
アクサ ローゼンバーグ・日本株式ファンド(A)	2,931,198	10.1
アクサ ローゼンバーグ・日本バリュース株式ファンド(B)	4,390,293	15.2
アクサ ローゼンバーグ・米国株式ファンド(A)	4,534,730	15.7
アクサ ローゼンバーグ・欧州株式ファンド(A)	2,825,108	9.8
アクサ ローゼンバーグ・日本債券ファンド(B)	13,721,109	47.4
合計	28,974,971	100.0

各特別勘定で利用している国内投資信託は、いずれも「その他有価証券」の項目に含まれています。

金額の単位未満は切捨てとしました。また、比率については小数点第二位を四捨五入しています。

特別勘定の運用コメントおよび今後の運用方針

当期のINDEX騰落率等は上記をご参照願います。

資産配分に関しては、基本資産配分を概ね維持しております。(株式部分は、日本株式25%、欧米株式25%の資産配分といたしました。)

今後も引き続き、運用方針に沿って運用を行う予定ですが、将来の市場環境の変動等により、当該運用方針が変更されることがあります。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-778-133

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

変額保険

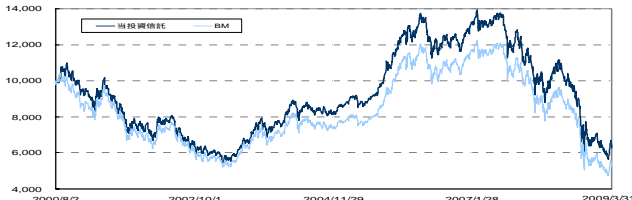
特別勘定の四半期運用レポート (2009年1月～2009年3月)

- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- ・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- ・当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

アクサ ローゼンバーグ・日本株式ファンド(A) 適格機関投資家私募 の運用状況

[2009年3月 末日現在]

当投資信託の基準価額の推移



投資信託の設定日(2000年8月3日)の前日を10,000として指数化しています。

利用する投資信託について

[投資信託名] アクサ ローゼンバーグ・日本株式ファンド(A) 適格機関投資家私募
 [委託会社] アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社
 [運用方針]

マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本の株式を対象に投資を行い、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。定量スクリーニングによって割安度が高く、かつ成長性の高い銘柄を中心に投資します。

当投資信託は、主としてアクサ ローゼンバーグ・日本株式マザー・ファンド受益証券 適格機関投資家私募 に投資します。

当投資信託の騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	2.26%	10.17%	26.07%	33.09%	52.95%	37.43%
BM	2.24%	9.96%	28.85%	36.22%	55.23%	47.82%
差	0.02%	0.21%	2.79%	3.13%	2.28%	10.39%

設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2000年8月3日)の前日を起点として計算しています。投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。

「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、東証株価指数(TOPIX)¹⁾です。

・比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

マザーファンド受益証券の詳細情報 業種別構成比率

業種	マザーファンド
1 銀行業	13.37%
2 電気機器	11.93%
3 輸送用機器	8.96%
4 情報・通信業	7.15%
5 化学	6.39%
6 小売業	6.18%
7 医薬品	5.59%
8 食料品	5.27%
9 その他業種	33.51%
10 現金等	1.65%
合計	100.00%

市場別構成比率

市場	マザーファンド
1 東京証券取引所第一部	93.92%
2 大阪証券取引所第一部	4.37%
3 ジャスダック証券取引所	0.06%
4 現金等	1.65%
合計	100.00%

組入上位10銘柄

銘柄	業種	マザーファンド
1 トヨタ自動車	輸送用機器	4.00%
2 三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	3.52%
3 日本電信電話	情報・通信業	2.18%
4 三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	1.81%
5 本田技研工業	輸送用機器	1.75%
6 エヌ・ティ・ティ・ドコモ	情報・通信業	1.52%
7 武田薬品工業	医薬品	1.50%
8 キヤノン	電気機器	1.42%
9 任天堂	その他製品	1.34%
10 東京電力	電気・ガス業	1.33%
合計		20.37%
組入銘柄数		488銘柄

上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の収益率は前四半期比 10.17%となりました。一方、ベンチマークである東証株価指数(TOPIX)の収益率は、前四半期比 9.96%となりました。当期の日本株式市場は、株式の売買が活発に行なわれた銘柄が相対的に下落する基調にあり、当投資信託ではこれらの銘柄をベンチマーク対比で少なめに保有していたことはプラスへ寄与しました。

委託会社独自の業種別では、上昇した自動車、ITハードウェアや総合商社をベンチマーク対比で少なめに保有していたことはマイナスへ寄与しました。

個別銘柄では、上昇したスズキ(7269)、デンソー(6902)や新日本石油(5001)を少なめに保有していたことは、いずれもマイナスに寄与しました。

当投資信託の運用方針は、わが国の企業の株式から、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別し、ポートフォリオをベンチマークからの乖離が一定の範囲内に収まるよう構築することで、中・長期的な観点から安定的にベンチマークを上回る運用を目指します。

割安株の選別は、独自に開発したシステムティックなモデル(定量分析)を幅広い銘柄に適用し、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目して、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行なうことを基本とします。

将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。

・4ページ～8ページに記載されている「*1～*4」の用語説明は、9ページに記載しています。

[引受保険会社]

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-778-133

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

変額保険

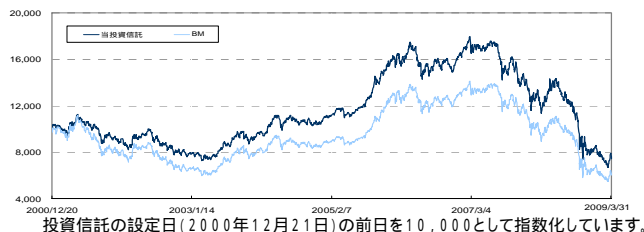
特別勘定の四半期運用レポート (2009年1月～2009年3月)

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知ください。
- 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- 当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

アクサ ローゼンバーク・日本バリュー株式ファンド(B) 適格機関投資家私募 の運用状況

[2009年3月 末日現在]

当投資信託の基準価額の推移



利用する投資信託について

【投資信託名】 アクサ ローゼンバーク・日本バリュー株式ファンド(B) 適格機関投資家私募
 【委託会社】 アクサ・ローゼンバーク証券投資顧問株式会社
 【運用方針】

マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本の株式を対象に投資を行い、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。定量スクリーニングによって割安度が高く、かつ成長性の高い銘柄を中心に積極的に投資します。

当投資信託は、主としてアクサ ローゼンバーク・日本バリュー株式マザー・ファンド受益証券 適格機関投資家私募 に投資します。

当投資信託の騰落率

	過去 1ヵ月	過去 3ヵ月	過去 6ヵ月	過去 1年	過去 3年	設定来
投資信託	2.02%	12.15%	30.26%	38.18%	56.11%	25.85%
BM	2.24%	9.96%	28.85%	36.22%	55.23%	39.99%
差	0.22%	2.19%	1.41%	1.96%	0.88%	14.14%

設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2000年12月21日)の前日を起点として計算しています。投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りは異なります。

「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、東証株価指数(TOPIX)¹⁾です。

・比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

マザーファンド受益証券の詳細情報 業種別構成比率

業種	マザーファンド
1 医薬品	13.35%
2 銀行業	13.20%
3 情報・通信業	10.73%
4 化学	9.11%
5 電気機器	8.86%
6 食料品	5.72%
7 小売業	5.62%
8 輸送用機器	3.98%
9 その他業種	27.81%
10 現金等	1.63%
合計	100.00%

市場別構成比率

市場	マザーファンド
1 東京証券取引所第一部	92.08%
2 大阪証券取引所第一部	3.40%
3 ジャスダック証券取引所	1.21%
4 東京証券取引所第二部	1.11%
5 名古屋証券取引所	0.37%
6 大阪証券取引所第二部	0.21%
7 現金等	1.63%
合計	100.00%

組入上位10銘柄

銘柄	業種	マザーファンド
1 三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	3.32%
2 エス・ティ・ティ・ドコモ	情報・通信業	3.25%
3 武田薬品工業	医薬品	3.16%
4 日本電信電話	情報・通信業	3.09%
5 アステラス製薬	医薬品	2.60%
6 KDDI	情報・通信業	2.58%
7 国際石油開発帝石	鉱業	2.21%
8 第一三共	医薬品	1.94%
9 東海旅客鉄道	陸運業	1.88%
10 ジェイ エフ イー ホールディングス	鉄鋼	1.83%
合計		25.86%
組入銘柄数		369銘柄

上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の収益率は前四半期比 12.15%となりました。一方、ベンチマークである東証株価指数(TOPIX)の収益率は、前四半期比 9.96%となりました。当期の日本株式市場は、株式の売買が活発に行なわれた銘柄が相対的に下落する基調にあり、当投資信託ではこれらの銘柄をベンチマーク対比で少なめに保有していたことはプラスへ寄与しました。委託会社独自の業種別では、上昇した自動車、総合商社やITハードウェアをベンチマーク対比で少なめに保有していたことはマイナスへ寄与しました。

個別銘柄では、上昇した本田技研工業(7267)、トヨタ自動車(7203)を少なめに保有していたことや、下落したKDDI(9433)を多めに保有していたことはいずれもマイナスに寄与しました。

当投資信託の運用方針は、わが国の企業の株式から、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別し、積極的に投資することで、ベンチマークを中・長期的に上回る運用を目指します。割安株の選別は、独自に開発したシステムティックなモデル(定量分析)を幅広い銘柄に適用し、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目して、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行なうことを基本とします。

将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。

・4ページ～8ページに記載されている「*1～*4」の用語説明は、9ページに記載しています。

[引受保険会社]

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-778-133

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

変額保険

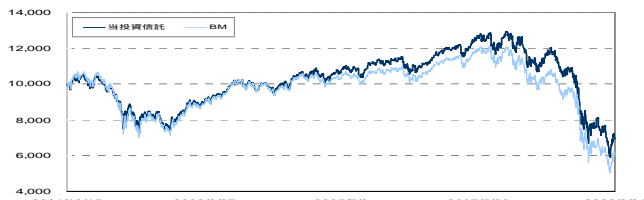
特別勘定の四半期運用レポート (2009年1月～2009年3月)

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- 当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

アクサ ローゼンバーグ・米国株式ファンド(A) 適格機関投資家私募 の運用状況

[2009年3月 末日現在]

当投資信託の基準価額の推移



投資信託の設定日(2001年10月16日)の前日を10,000として指数化しています。

当投資信託の騰落率

投資信託	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
BM	4.85%	8.56%	25.88%	36.91%	39.08%	30.82%
差	0.30%	1.00%	3.56%	4.37%	6.86%	10.59%

マザーファンド受益証券の詳細情報 セクター別構成比率

セクター	マザーファンド
1 医薬品・バイオテクノ・ライフ	11.92%
2 エネルギー	10.48%
3 ソフトウェア・サービス	8.55%
4 食品・飲料・タバコ	7.90%
5 テクノロジー・ハードウェア	7.88%
6 ヘルスケア機器・サービス	6.30%
7 公益事業	5.41%
8 資本財	5.08%
9 その他業種	35.49%
10 現金等	0.98%
合計	100.00%

組入上位10銘柄

銘柄	国名	セクター	マザーファンド
1 EXXON MOBIL CORPORATION	アメリカ	エネルギー	4.15%
2 INTL BUSINESS MACHINES CORP	アメリカ	テクノロジー・ハードウェア	2.13%
3 MICROSOFT CORP	アメリカ	ソフトウェア・サービス	2.05%
4 JOHNSON & JOHNSON	アメリカ	医薬品・バイオテクノ・ライフ	2.00%
5 WAL-MART STORES INC	アメリカ	食品・生活必需品小売り	1.98%
6 AT&T INC	アメリカ	電気通信サービス	1.80%
7 PROCTER & GAMBLE CO	アメリカ	家庭用品・パーソナル用品	1.68%
8 CHEVRON CORP	アメリカ	エネルギー	1.62%
9 ABBOTT LABORATORIES	アメリカ	医薬品・バイオテクノ・ライフ	1.39%
10 PHILIP MORRIS INTERNATIONAL INC	アメリカ	食品・飲料・タバコ	1.37%
合計			20.15%
組入銘柄数			335銘柄

上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の収益率は前四半期比 8.56%となりました。一方、ベンチマークであるS&P500種株価指数(為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの)の収益率は前四半期比 9.56%となりました。当期の米国株式市場は、高配当利回り銘柄が相対的に下落する基調にあり、当投資信託ではこれらの銘柄をベンチマーク対比で少なめに保有していたことはプラスへ寄与しました。委託会社独自の業種別では、下落した銀行を少なめに保有していたことや、REIT(不動産投資信託)を保有していなかったことはプラスに寄与しました。

個別銘柄では、下落した銀行のWells Fargo & Companyや資本財のGeneral Electric Companyを少なめに保有していたことはプラスに寄与しました。当投資信託の運用方針は、米国企業の株式の中で、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別してポートフォリオを構築することで、ベンチマークを中長期的に安定的に上回る運用を目指します。割安株の選別は、銘柄選択用クオンツモデル(定量分析)等により、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目し、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行なうことを基本とします。

将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

利用する投資信託について

【投資信託名】 アクサ ローゼンバーグ・米国株式ファンド(A) 適格機関投資家私募
 【委託会社】 アクサ・ローゼンバーグ証券投資顧問株式会社
 【運用方針】

マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として米国の企業が発行する株式を対象に投資を行い、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」(バリューストック)を選別してポートフォリオを構築することで、ベンチマークを中長期的にみても、安定的に上回る運用をめざします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。

当投資信託は、主としてアクサ ローゼンバーグ・米国株式マザー・ファンド受益証券 適格機関投資家私募 に投資します。

設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2001年10月16日)の前日を起点として計算しています。

投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りは異なります。

「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、S&P500種株価指数²(為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの/円ベース)です。

比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。

・4ページ～8ページに記載されている「*1～*4」の用語説明は、9ページに記載しています。

[引受保険会社]

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-778-133

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

変額保険

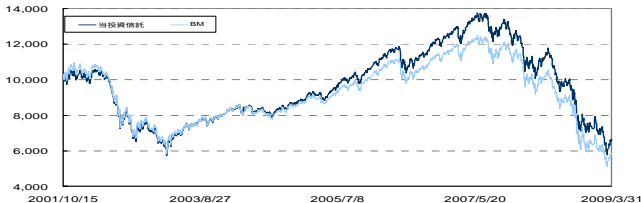
特別勘定の四半期運用レポート (2009年1月～2009年3月)

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- 当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

アクサ ローゼンバーグ・欧州株式ファンド(A) 適格機関投資家私募 の運用状況

[2009年3月 末日現在]

当投資信託の基準価額の推移



投資信託の設定日(2001年10月16日)の前日を10,000として指数化しています。

当投資信託の騰落率

	過去 1ヵ月	過去 3ヵ月	過去 6ヵ月	過去 1年	過去 3年	設定率
投資信託	1.90%	13.21%	26.39%	40.50%	45.80%	36.65%
BM	1.91%	13.58%	29.54%	42.89%	49.94%	44.63%
差	0.01%	0.37%	3.15%	2.39%	4.14%	7.98%

マザーファンド受益証券の詳細情報 国別構成比率

国名	マザーファンド
1 イギリス	27.26%
2 フランス	14.49%
3 ドイツ	12.22%
4 スイス	11.62%
5 オランダ	7.92%
6 スペイン	6.06%
7 イタリア	5.60%
8 スウェーデン	3.35%
9 その他の国	10.31%
10 現金等	1.16%
合計	100.00%

組入上位10銘柄

銘柄	国名	セクター	マザーファンド
1 VODAFONE GROUP PLC	イギリス	電気通信サービス	2.92%
2 NOVARTIS AG-REG SHS	スイス	医薬品・バイオテクノロジー	2.64%
3 TELEFONICA S.A.	スペイン	電気通信サービス	2.59%
4 GLAXOSMITHKLINE PLC	イギリス	医薬品・バイオテクノロジー	2.49%
5 NESTLE SA-REGISTERED	スイス	食品・飲料・タバコ	2.34%
6 BP PLC	イギリス	エネルギー	2.30%
7 ROYAL DUTCH SHELL PLC-A SHS	オランダ	エネルギー	2.29%
8 SANOFI-AVENTIS	フランス	医薬品・バイオテクノロジー	2.07%
9 TOTAL SA	フランス	エネルギー	1.93%
10 ASTRAZENECA PLC	イギリス	医薬品・バイオテクノロジー	1.81%
合計			23.38%
組入銘柄数			263銘柄

上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の収益率は前四半期比 13.21%となりました。一方、ベンチマークであるMSCI欧州株価指数(為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの)の収益率は前四半期比 13.58%となりました。当期の欧州株式市場は、市場の動きと連動した株価の動きを示す銘柄が相対的に下落する基調にあり、当投資信託ではこれらの銘柄をベンチマーク対比で少なめに保有していたことはプラスに寄与しました。委託会社独自の業種別では、上昇した金属や石油を少なめに保有していたことや、下落した保険を多めに保有していたことはマイナスへの寄与となりました。個別銘柄では、上昇した自動車・自動車部品のVolkswagen AG(ドイツ)を多めに保有していたことや、上昇した資本財のEuropean Aeronautic Defence and Space Company(オランダ)や保険のAviva plc(イギリス)を少なめに保有していたことはマイナスに寄与しました。

当投資信託の運用方針は、欧州企業の株式の中で、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別してポートフォリオを構築することで、ベンチマークを中長期的に安定的に上回る運用を目指します。割安株の選別は、銘柄選択用クオンツモデル(定量分析)等により、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目し、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行なうことを基本とします。

将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

利用する投資信託について

【投資信託名】 アクサ ローゼンバーグ・欧州株式ファンド(A) 適格機関投資家私募
【委託会社】 アクサ・ローゼンバーグ証券投資顧問株式会社
【運用方針】

マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として欧州地域の企業が発行する株式を対象に投資を行い、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」(バリュー株)を選別してポートフォリオを構築することで、ベンチマークを中長期的にみて、安定的に上回る運用をめざします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。

当投資信託は、主としてアクサ ローゼンバーグ・欧州株式マザー・ファンド受益証券 適格機関投資家私募 に投資します。

設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2001年10月16日)の前日を起点として計算しています。

投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りは異なります。

「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、MSCI欧州株価指数³

(為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの/円ベース)です。

比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

セクター別構成比率

セクター	マザーファンド
1 医薬品・バイオテクノロジー	13.43%
2 電気通信サービス	13.24%
3 エネルギー	12.40%
4 食品・飲料・タバコ	9.23%
5 銀行	7.61%
6 素材	6.61%
7 公益事業	6.42%
8 資本財	4.71%
9 その他業種	25.19%
10 現金等	1.16%
合計	100.00%

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。

・4ページ～8ページに記載されている「*1～*4」の用語説明は、9ページに記載しています。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-778-133

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

変額保険

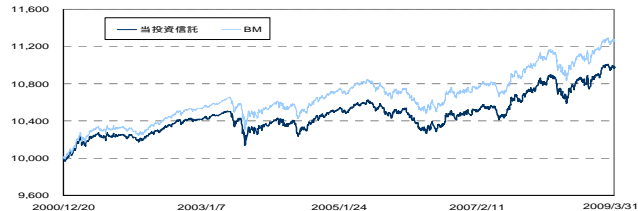
特別勘定の四半期運用レポート (2009年1月～2009年3月)

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- 当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

アクサ ローゼンバーグ・日本債券ファンド(B) (適格機関投資家私募)の運用状況

[2009年3月 末日現在]

■ 当投資信託の基準価額の推移



※ 投資信託の設定日(2000年12月21日)の前日を10,000として指数化しています。

■ 当投資信託の騰落率

	過去 1ヵ月	過去 3ヵ月	過去 6ヵ月	過去 1年	過去 3年	設定来
投資信託	▲0.20%	▲0.32%	1.31%	0.62%	5.98%	9.59%
BM	▲0.21%	▲0.18%	1.52%	0.83%	6.60%	12.48%
差	0.01%	▲0.14%	▲0.21%	▲0.21%	▲0.63%	▲2.89%

■ 利用する投資信託について

【投資信託名】 アクサ ローゼンバーグ・日本債券ファンド(B) (適格機関投資家私募)
 【委託会社】 アクサ・ローゼンバーグ証券投資顧問株式会社
 【運用方針】

マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、原則としてわが国の公社債に投資を行い、ベンチマークを中長期的にみて、上回る運用をめざします。外貨建資産に投資した場合は、原則として為替ヘッジを行います。

※ 当投資信託は、主としてアクサ ローゼンバーグ・日本債券マザー・ファンド受益証券(適格機関投資家私募)に投資します。

※ 設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2000年12月21日)の前日を起点として計算しています。

※ 投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りは異なります。

※ 「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、日興債券パフォーマンス・インデックス(総合⁴、中期3年以上7年未満)です。

・ 比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

■ マザーファンド受益証券の詳細情報

○ 資産構成

	修正デュレーション	マザーファンド
公社債	4.39 年	99.90%
国債	5.06 年	74.20%
地方債	0.00 年	0.00%
特殊債・財投債	2.73 年	6.66%
金融債	1.23 年	0.60%
社債等	2.41 年	18.45%
その他	0.00 年	0.00%
短期資産等	0.00 年	0.10%
合計	4.39 年	100.00%

* 債券先物を含みます。

※ 「修正デュレーション」とは、債券価格の弾力性を示す指標として用いられ金利の変化に対する債券価格の変動率を示します。

○ 公社債の格付別構成比率

格付区分	マザーファンド
AAA	6.64%
AA	85.15%
A	7.01%
BBB	1.20%
BB以下(無格付含)	0.00%
合計	100.00%

格付基準:

※ 海外格付機関の格付を優先します。

※ 海外格付機関の格付取得の無い発行体は、国内格付機関の格付を採用します。

○ 組入上位10銘柄

順位	銘柄	国名	クーポン	償還日	格付		マザーファンド
					ムーディーズ	S&P	
1	第259回利付国債(10年)	日本	1.500%	2014年3月20日	Aa3	AA	7.43%
2	第257回利付国債(10年)	日本	1.300%	2013年12月20日	Aa3	AA	7.07%
3	第254回利付国債(10年)	日本	1.400%	2013年9月20日	Aa3	AA	6.59%
4	第252回利付国債(10年)	日本	1.000%	2013年6月20日	Aa3	AA	6.13%
5	第269回利付国債(10年)	日本	1.300%	2015年3月20日	Aa3	AA	5.82%
6	第70回利付国債(5年)	日本	0.800%	2013年3月20日	Aa3	AA	4.81%
7	第285回利付国債(10年)	日本	1.700%	2017年3月20日	Aa3	AA	3.76%
8	第248回利付国債(10年)	日本	0.700%	2013年3月20日	Aa3	AA	3.59%
9	第245回利付国債(10年)	日本	0.900%	2012年12月20日	Aa3	AA	3.45%
10	第66回利付国債(5年)	日本	1.100%	2012年9月20日	Aa3	AA	3.35%
合計							51.99%
組入銘柄数							61銘柄

※ 上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

■ 当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の収益率は前四半期比▲0.32%、一方、ベンチマークである日興債券パフォーマンス・インデックス(総合、中期3年以上7年未満)は前四半期比▲0.18%となりました。当期、ベンチマークとの比較では、マザーファンドにおける社債保有が主なマイナス要因となりました。金利低下は市場に織り込まれ、各国の拡大財政政策の継続を懸念した需給の悪化による長期金利上昇懸念も意識し、当運用チームは、デュレーションを若干の短期化としましたが、パフォーマンスへの影響は限定的でした。また、対国債利回り格差は、1月末から3月末まで急拡大しました。従って、社債価格の下落要因となり、社債保有がマイナス寄与となりました。インフレ運動国債は月毎に方向感が定まらず、影響は限定的でした。市場の流動性は十分でなくボラティリティも大きいことから、マザーファンドのポートフォリオでは、大きな入れ替え売買等は見送りました。

今後については、日本債券市場は、金融不安や世界および日本経済の後退局面を色濃く反映した状況が続くものと思われ、信用創造余力に乏しい銀行の影響から、金融緩和の実体経済への波及効果は緩やかなものになると判断しています。市場のボラティリティが高く、流動性に乏しい状況も継続するとの判断から、当投資信託では、ポートフォリオに過度なバイアスをかけることなく、リスクに配慮し、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。

※ 将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・ 表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。

・ 4ページ～8ページに記載されている「*1～*4」の用語説明は、9ページに記載しています。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-778-133

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

用語説明

- *1 「東証株価指数(TOPIX)」とは、東京証券取引所第一部に上場する国内株全銘柄を対象として算出した指数で、わが国の株式市場全体の値動きを表す代表的な株価指数です。
東証株価指数(TOPIX)は、株式会社東京証券取引所(以下「東証」)の知的財産であり、この指数の算出、数値の公表、利用など株価指数に関するすべての権利は東証が有しています。
東証は、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止、またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。
- *2 「S & P 500種株価指数」とは、スタンダード・プアーズ社が公表している株価指数で、米国の主要500社によって構成されています。当該指数に関する一切の知的財産権その他一切の権利はスタンダード・プアーズ社に帰属しています。S & P 500種株価指数(為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの)は、S & P 500種株価指数(米ドルベース)に対し、委託会社が為替ヘッジコスト相当分を調整して、わが国の対顧客電信売買相場の仲値を用いて円ベースに換算したものです。
- *3 「MSCI欧州株価指数」とは、MSCI Inc. の算出する欧州株式市場の動きを示す指数です。MSCI欧州株価指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。
また、MSCI Inc. は、指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。MSCI欧州株価指数(為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの)は、MSCI欧州株価指数(ユーロベース)に対し、委託会社が為替ヘッジコスト相当分を調整して、わが国の対顧客電信売買相場の仲値を用いて円ベースに換算したものです。
- *4 「日興債券パフォーマンス・インデックス(総合)」とは、日興フィナンシャル・インテリジェンス株式会社が発表している、日本の債券市場の動きを表す指数です。国債、地方債、政府保証債、財投機関債、金融債、事業債などの円建て公募利付債で構成されています。対象となる債券は残存年数1年以上、残存額面10億円以上で、格付機関からBBB格相当以上の格付を取得している発行体に限られます。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は日興コーディアル証券株式会社に帰属します。また、日興コーディアル証券株式会社は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

注意事項

変額保険の仕組み

変額保険とは、保険金額が「特別勘定」の資産運用実績にもとづいて変動する生命保険です。

*特別勘定とは、変額保険にかかわる資産の管理・運用を行うもので、他の保険種類にかかわる資産とは区分し、独立して管理・運用を行います。

変額保険のリスクについて

市場リスク

特別勘定の資産運用には、株価の低下や為替の変動等による投資リスクがあります。場合によっては、お受け取りになる保険金額(有期型の場合、満期保険金を含む)や解約払いもどし金額の合計額が、払い込まれた保険料の合計額を下回る可能性があります。なお運用実績にかかわらず、死亡・高度障害時保険金は保証されています。

信用リスク

万一、引受生命保険会社が経営破綻に陥った場合、ご契約時にお約束した給付金等の金額が削減されることがあります。その場合、生命保険契約者保護機構により、保険契約者保護の措置が図られることがありますが、この場合にも、ご契約時の給付金等の金額が削減されることがあります。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-778-133

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>